いっぺいといっぷく

その37

市長は長久手をどんなまちにしたくて、そのために何に取り組もうとしているのか。その想いを市長の語り口でお伝えします。
みなさんと語り合うように、一緒に未来の長久手のことを考えてみましょう。
また、市HP【にょぜがもん】もぜひご覧ください。
[市HPのトップページから「にょぜがもん」をクリック。]

40代、50代のモデルに

国は、地方創生のため、都会の健康な高齢者が移り住むまちを地方に整備する、日本版CCRC(Continuing Care Retirement Community:継続なケアを受けられる高齢者の地域共同体)構想を進めています。

CCRC発祥の地であるアメリカでは、CCRCとは、健康なうちから移り住み、医療や介護を受けながら活動的に暮らす終(つい)の住みかを指しますが、国は日本版CCRCを高齢者が安心して暮らせる「生涯活躍のまち」と位置付けているようです。

今年2月、石破地方創生担当大臣に本市を視察していただきました。そのとき、私は大臣に「一部の地域だけで行うCCRCではなく、まち中がCCRCの長久手市にしたい」と発言しました。リタイア後の人々の暮らし方のモデルを作りたいのです。しかし、それは高齢者のためだけではありません。

私は、世の中には「時間に追われない国(=地域)」と「時間に追われる国(=会社等)」が存在すると考えています。かつては、定年後まもなく平均寿命を迎え、「時間に追われる国」の住民のまま一生を終えましたが、今は、平均寿命が延び、再び、「時間に追われない国」へ戻り、そこで長い時間を過ごす人が増えてきました。

今、「時間に追われる国」へ行く訓練はあっても、「時間に追われない国」に戻る訓練の機会はありません。そのため、「時間に追われない国」=「地域」に戻っても、会社で働いているときの価値観を引きずったままで、地域になじめない人が非常に多いように思います。

自分が住む地域のことを、地域に住むみなさんでワイワイと考える市民主体によるまちづくりは、地域に戻るための最適な訓練です。本市では先例がないため、職員も市民のみなさんも手を焼いていますが、まさに今、取組んでいることが、40代、50代の人たちがリタイアしたときのモデルになります。市民主体のまちづくりは、決して、既にリタイアしている人たち、高齢者のためだけの取り組みではないのです。

時間に追われない国(地域)	時間に追われる国(会社等)
子どもや高齢者のいる暮らしの場 →生活集団	学校、企業等働く人のいる仕事の場 →目的集団
・いろいろな人々が一緒に暮らす	・同質の人たちを集める
・プロセスを楽しむ	・最短距離を最高の効率で結果を求める
・存在そのものが大切	・能力に価値がある
・人の数ほど答えがある	・正解がある
・いつも未完成	・完成解決をめざす

表紙の写真もう一枚

元全日本バレーボール選手の大林素子氏と永富有紀氏を講師に迎え、市内中学生を対象にNHKジュニアバレーボール教室が開催されました。講師からは「目標のために、明日でいいやではなく、今日からできることに取り組みましょう」とエールをいただきました。

スマートフォンで広報ながくてを持ち歩こう!
App Store Google Play 「ながくて」で検索▶ダウンロード

この広報紙の無断転載を禁じます。 視覚障がい者のみなさんにも家族から読んであげてください。
この広報紙は、植物油インキを使用しています。

ながくて 広報ながくて
No.641 発行/愛知県長久手市 編集/市長公室情報課 TEL/(0561)63-1111 FAX/(0561)63-2100 〒480-1196 愛知県長久手市岩作城の内60番地1 ホームページ http://www.city.nagakute.lg.jp